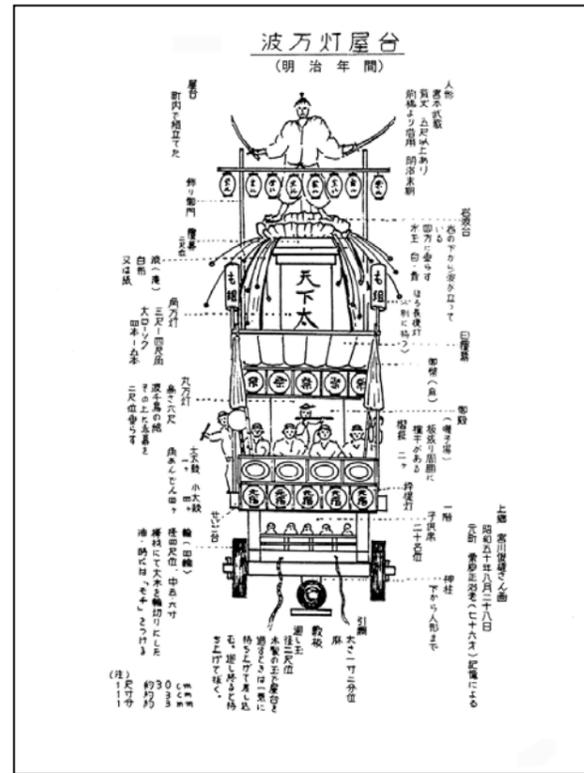


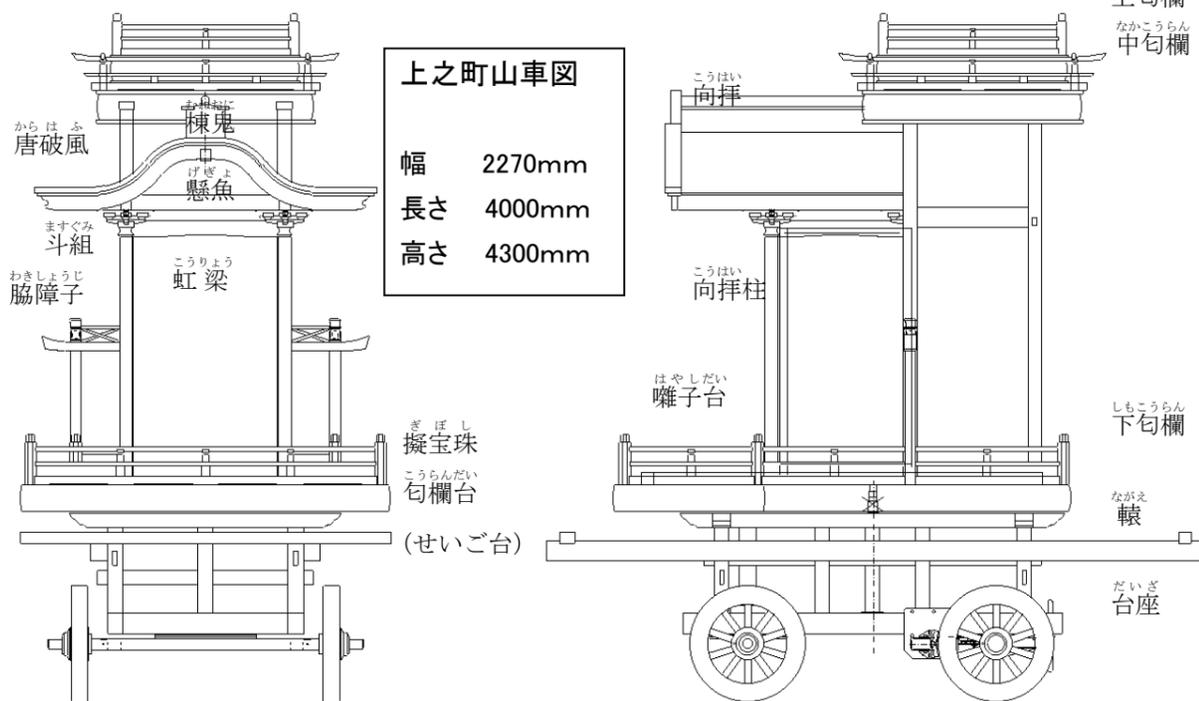


外丸家所蔵 天保時代の山車のスケッチ



なみまんどうやたい
元宿の波万灯屋台

車台の上に大きな柱を立て、それを竹を使った波や沢山の提灯で飾る。全国的に見られる御柱曳きという形式。方向転換は「廻し玉」を入れて行く。高さは9mもあった。山車とは言わず、屋台と言っていた。



掲載の資料は宮川俊雄著「渋川の祇園と郷土芸能と祭礼行事記」、元町自治会発行の「元町の歴史一祭りを中心に」から引用しています。

いちばんぐみだしまつりおぼえがき
一番組山車祭り覚え書



れきし
渋川山車祭りの歴史

山車祭りの起源は残念ながらはっきりしない。今から161年前の1841年(天保12年)の文書に山車のスケッチがあり、上・中・下の3町と新町は今の山車に近い形のものだったけれど、元宿、裏宿、川原町の3町のは1本の木だったり、「のぼり」だったりしている。(最後のページ参照)

153年前の嘉永3年には元宿、裏宿、川原町、上ノ町、中ノ町、天王下、北横町(本町)、南横町(南町)、下ノ町、新町が八幡様に上り、寄居町の獅子組は獅子三頭と囃子方により露払い役をつとめたそうだ。

128年前の1874年(明治7年)になって八幡様と八坂様のお祭りを一緒にすることに決めて、9月1・2日には11本の波万灯屋台が各町の財力に応じて作られ、その後の渋川祭りの形式がほぼ整い、毎年のように祭礼が行われるようになったんだ。

1910年(明治43年)に渋川と伊香保の間にちんちん電車が走るようになった。すると、今までの波万灯屋台では大きすぎて架線に当たってしまうので、他町内では現在のように勾欄が上下する山車に買いかえないといけなくなったんだ。でも上之町はもう今の山車になってたんだ！
上之町の先輩たちの偉さだよ。

かみんちよの山車

上之町は渋川発展の歴史の中で、一番お祭りに力を入れていて、江戸時代から大正時代にかけて渋川のお祭りのリーダーだった町内なんだ。

今の山車の前に少なくとも1台の山車を持っていて、これも大層立派なもので、その人形は「忠信」というものだったそう。この頃から真光寺に小屋を借りていた記録があるんだよ。

製作 明治18年ごろ(1885年)
浅草で作られたと言われている。

購入 117年前のことだ。
明治28年(1895年)
鴻巣から買って来た。

特徴 今から107年も前の話だよ。
山車全体に素彫りといって材料に直接彫刻する方法でたくさんの精密な彫刻がほどこされているので、工芸的な価値の高いものなんだ。
今度、どんなものが彫られているか良く見てみようね。

東京後藤直正、玉ノ井栄次郎
彫士壹丁目吉清の名前が書いてある。

どこに書いてあるか調べてみよう！

人形 人形は弁財天で、左手に知恵をあらわす宝珠、右手に財宝をあらわす蔵の鍵を持っている。冠には蛇のいる鳥居をかぶり、水の精をあらわしている。
歌・音楽の神さまでもあり、お正月の七福神の弁天様と同じ神さまなんだよ。



かみんちよの山車の不思議

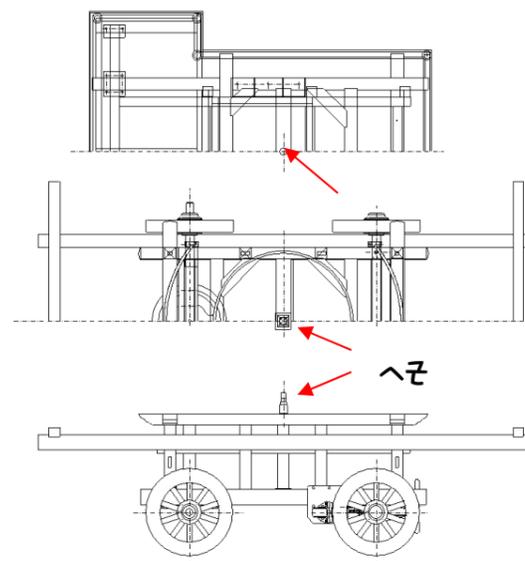
1. 釘を1本も使わなかった。

昔のお宮やお寺を建てる時は釘は使いませんでした。使うとしてもよく吟味して、とんてんかんと鍛冶屋が作ったので強く長持ちします。

釘を使わずに木材を組み合わせて家などを建てるには、「仕口」といって特殊な切込みを入れて組み合わせ、「くさび」や「はなせん」などを入れて外れないようにするんだ。
昔の棟梁はいろいろな仕口を知り、木の性質を活かしながら建物を作ったから、1200年も建っている建物もあるんだよ。

2. 「へそ」があるんだぜい！

見た人は少ないけど、上之町の山車には「へそ」があるんだ。この「へそ」を中心に「せいご台」(太鼓をたたいたり、人が乗るところ)がくるっと回る仕掛けになっている。祭りの見せ場を作る重要なものなんだ。
上ノ町の山車の自慢のひとつさ。

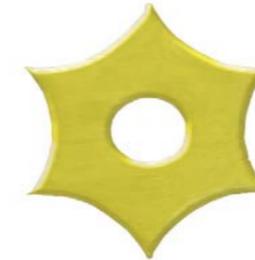


3. 鍛冶屋の細工

車輪の軸や「せいご台」の回転のためのレールに金物を使っていた。これらは鍛冶屋とか棒屋といわれる職人の細工だった。今ならば旋盤という機械を使ってまんまるく出来るけれど、そのころは鉄を赤めてたたいて形にするので、正方形や丸棒を正確に作るの難しかった。
車軸を修理して新しくするとき感心したんだ。4つの丸くない、少しずつ寸法のちがう軸に合わせて車輪の孔をあけたんだね。これだけでも大変な作業だったと思うよ。

4. 「ちくわ」のマークのルーツはなに？

上之町の町の「紋」は「ちくわ」だ。
なんで「ちくわ」かはっきりしていない。



- 江戸時代に前橋向町の屋台を買ったところ、向町の紋が「向」を図案化したこのマークだったのでそのまま利用している。
- 神社で今も行われている「茅の輪くぐり」の神事に使われる「茅の輪」が「ちくわ」になった。
- 食べ物の「ちくわ」の図案化したもの。などの説がある。君はどれを選ぶかな？

車輪の近くの金物には違うマークのようなものも見る事ができるよ。

まだまだ、不思議はいっぱいあるよ。
こんどは自分で発見してね！

一番組のわけ

江戸時代の初め、1613年(慶長18年) 渋川村領主だった安中藩主井伊直之がそれまであった元宿・裏宿・川原町に接続して上ノ町・中ノ町・下ノ町を企画した。

上ノ町の誕生は389年前ってことになる。
道幅3.7m、長さ436mで道路の中央と南北の宿裏に用水溝のある立派な都市計画だった。道路中央の用水溝は明治になって埋められたけれど、宿裏のものは今でもあるが、最近ほとんど水が流れていないのが残念だ。

1630年ころになると3町は2と7のつく日に交替で市を開き、(二・七の市)、次第に発展していった。このころになると参勤交代で江戸を往復する人たちも増えはじめ、江戸と越後・佐渡をつなぐ最短距離として産業・経済、軍事に重要な道になった三国街道は女子高の前を北に向かい、平沢川を渡って川原町と上ノ町の境にある木戸で「改め」を受けた。上ノ町は今まであった3町と新しい3町の中間にあってますます発展していく。

この木戸の上の3町を木戸上3町、木戸の下の新しい3町を木戸下3町と呼び、お祭り用語で歴史的にも重要な言葉なんだ。

1655年(承応3年)安中藩主水野備後守元綱は京都祇園町にある祇園社、八坂神社を勧請。木戸下3町は市の神様として大切にされた。牛頭天王をまつてあったことから「天王さま」と呼ばれて地名にまでなっている。天王さまのお祇園の「一番組」が上ノ町ってことなんだね。

1793年までは木戸上3町を中心とした八幡さまのお祭りと木戸下の天王さまのお祇園は別に行われていることがわかっている。

さやがたもん
紗綾型文の例

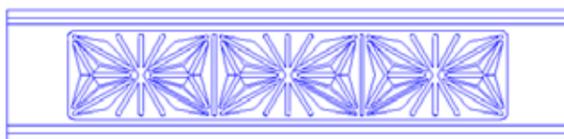
柱に見られる30°のもの。
文様は必ず「花頭窓」というお寺
などに多い窓枠で囲われている。



脇障子の外側の枠には45°

その他の文様

脇障子の下の方には図の文様がある。
上の図の花は小さくてよく判らないんだ。
下の図の文様は近代的だね。



色々の文様を組合せたり、変形したりして
創作している様子が判るね。
まだまだあるよ。
あとはみんなが発見しよう！

参考文献

- ・寺社建築の鑑賞基礎知識 至文堂
- ・日本建築のかたち 彰国社
- ・渋川の祇園と郷土芸能と祭礼行事記 新光社
- ・www.ne.jp/asahi/no/va/dk/
- ・park2.wakwak.com/~hero/

はなわちが
花輪違い文様

脇障子の最も上にある部材の文様は
「輪違文」をやや菱形に崩し、花を加えた
「花輪違文」だと思われる。「七宝文」にも似
ているのがある。4弁のものが普通だけど、山
車には「菊花菱」という文様が使われている。
これも和服の文様として人気があったそうだ。



きくはなびし
菊花菱

和服の文様では16弁と
か、12弁とかがある。

上の線画はC A Dといって、コンピュータ
を使って製図をする道具で描いたけれど、そ
れをコンピュータ・グラフィクスという絵を
描く道具を使うと本物みたいにできる！



きっしょうもん
吉祥文

紗綾型も輪違文も縦にも横にも自由に広げ
てゆけるので、無限の可能性を示すことから
おめでたい文様として吉祥文と呼ぶよ。

金具の文様

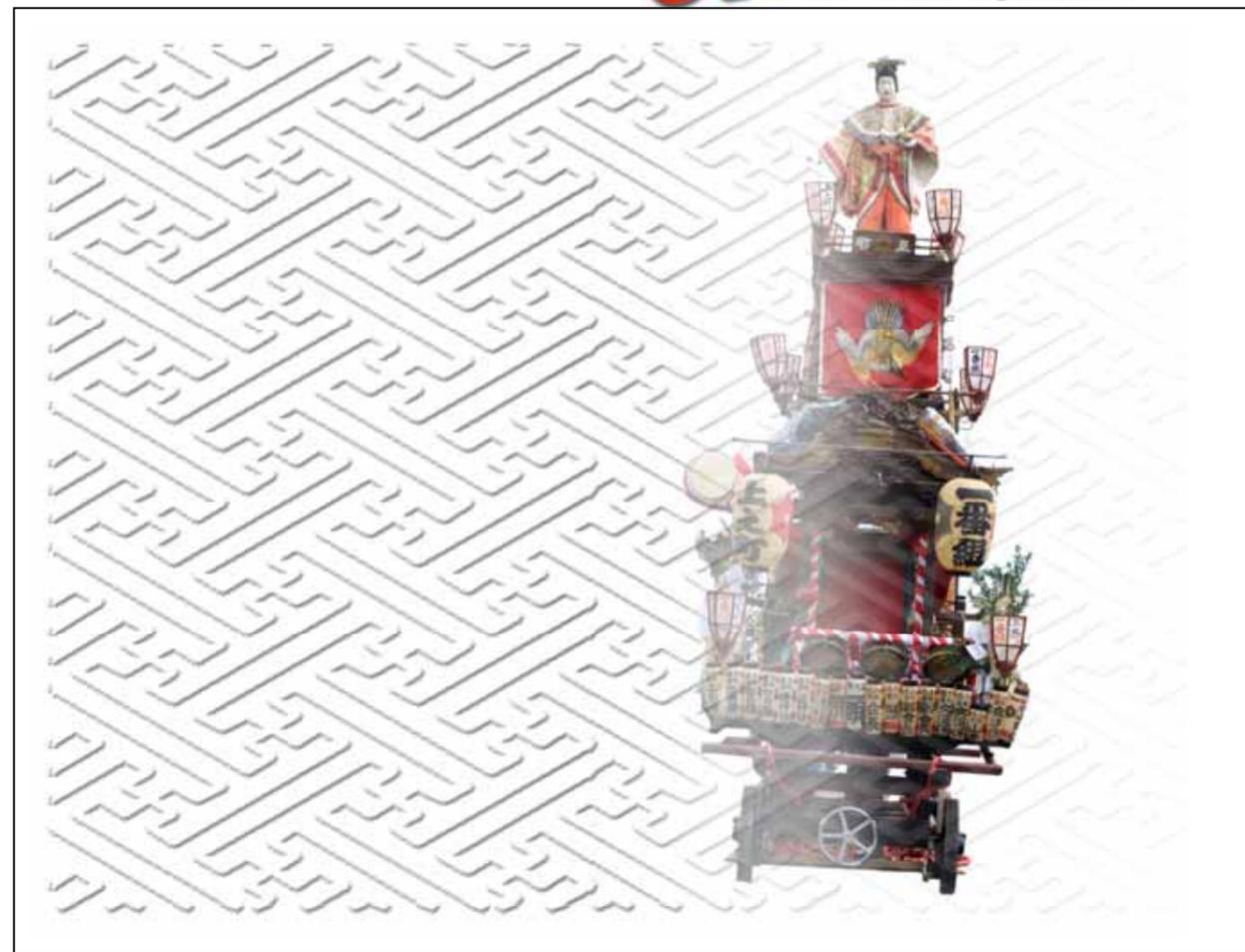
懸魚の上の植物文様の金具。この文様は台座
の装飾金具にも使われているよ。
植物や文様の名前が判ったら教えてね。



上之町祭典委員会

2006年7月編。

いちばんぐみだしまつりおぼえがき
一番組山車祭り覚え書その2



さやがたもんよう
紗綾型文様

上之町の山車は明治18年(1885)ごろに
東京浅草で作られたんだったね。江戸時代の
終りのころの職人たちが精魂こめて作った
傑作だ。

見える部品総てに彫刻が施され、全く彫り
物の無い部品は数えるほどしかないんだ。

上の図の斜めの線で描かれた文様は、この
山車の地文として山車全体に掘り込まれてい
る。斜めの度合いが30度、45度、60度の3
種類あり、彫り方も線で彫ったり、三角形に
彫ったりしているよ。

この文様は紗綾型と言われ、江戸時代の綸子
という着物のほとんどに使われていたとうい
代表的な地文で、卍を斜めにして連続した

模様になっているので、「卍崩し」、「卍繫ぎ」、
「雷文繫ぎ」などとも呼ばれている。昔は女
性のお祝い事などの白襟には紗綾型と決まっ
ていたそうだ。おばあちゃんなら知っている
かな？

「日本の機どころ」として有名な桐生は江戸
時代に西陣から「紗綾織」の技術を取り込ん
で有名になったので、天満宮で「紗綾市」と
いう絹の市を開いていた歴史がある。

こあらんだい
匂欄台の紗綾型

60度の角度で三角形に深く彫り込まれている。



ほものかず
彫り物の数は67!

この山車を作った棟梁は彫刻にも深くかわっていたと思われ、多くの経験をふまえ、こだわりと意気込みを感じる。

始めから人形は「弁財天」と決めて、彫り物のテーマは「龍」や「水」を主題にしているようだ。

彫り物の数は67もあり、何人かで分担しても、大変な日数がかかったことだろう。

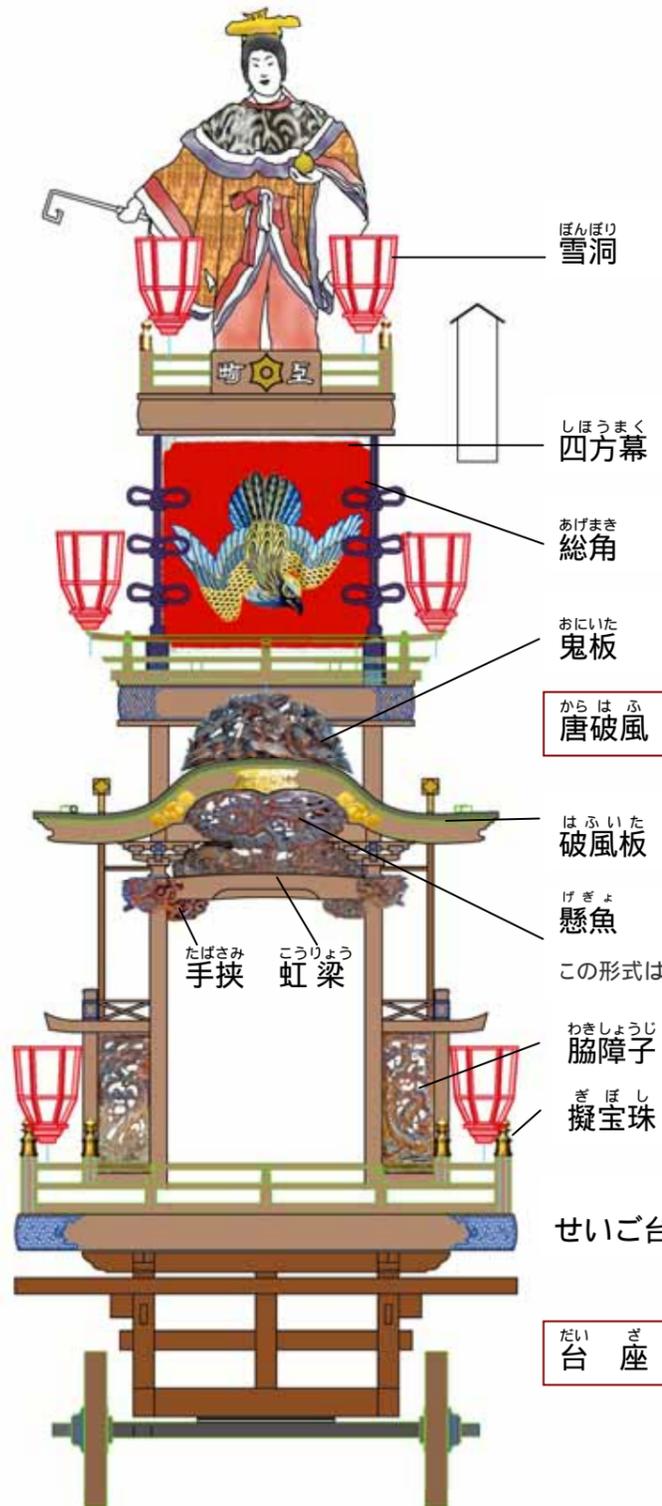
彫士は東京後藤直正、後藤、玉ノ井栄次郎、丁目吉清の名が読める。

ほものいちらん
彫り物一覧

- 下高欄腰板
- 正面 馬師皇[龍、馬、仙人]
 - 左前 源頼朝出陣図
 - 左後 龍宮と乙姫
 - 後 海人[龍、海女]
 - 右後 浦島太郎
 - 右前 新羅征伐[神功皇后、武内宿称]
- 下高欄欄間
- 囃子座 10面 合戦絵巻。未調査
 - 右後(4)、後(3)、左後(4)は時計回りに十二支。但し、未と申は1面
- 下高欄木鼻
- 脇障子 狗[波、雲]
 - 脇障子 松鶴と牡丹1対、亀と波1対
- 向拝虹梁上
- 正面 龍虎対決
 - 右 大江山酒吞童子
 - 左 さかのうえのたむらる 坂上田村麻呂の黒龍退治
- 向拝懸鼻
- 唐獅子(1対)
- 向拝手挟
- 波に千鳥(3対)
- 向拝臺股
- 松に鳥
- 向拝奥虹梁上
- 司馬温公の覆割
- 懸魚
- 龍
- おにいた
- 鬼板 八岐大蛇
- 中高欄下
- 右 七福神
 - 後 天之岩戸
 - 左 鎮西八郎為朝
- 中高欄腰板
- 龍と波
- 上高欄腰板
- 波
- 虹梁
- 波と千鳥(4)、唐草(4)

りゅう
龍にもいっぱいある

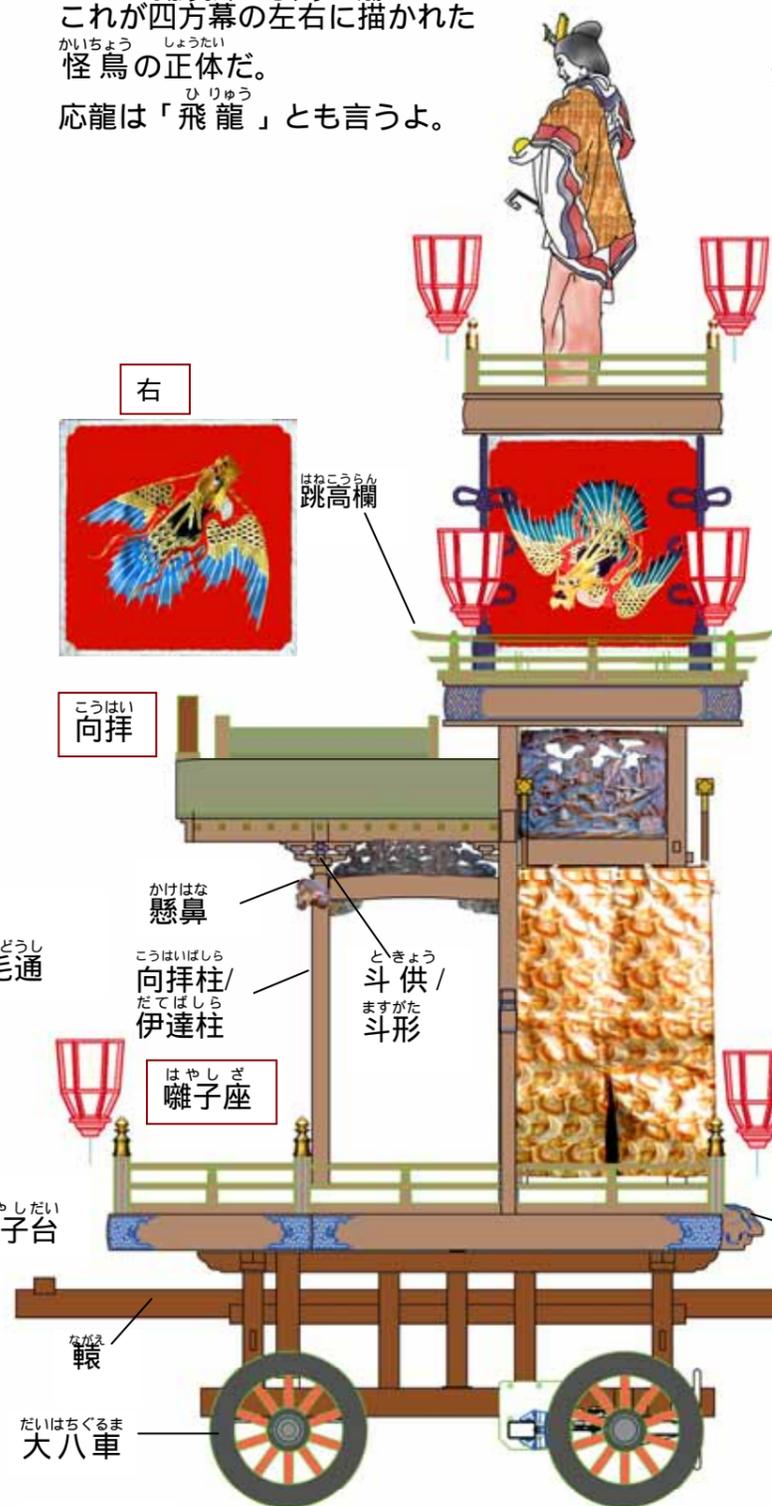
龍は水中にひそみ、気を吐いて雲を作り、雨を呼び、それに乗じて天に昇るといふ。だから水神様とか龍神様と言われてきたんだ。龍宮城の守護神だから、珠を取りに来た海女を追いかけて取り戻そうとする龍宮珠取り伝説は「海人」という「能」になっている。



正面のぼんぼりは5つあったが、いつの間にか2つになった。時代の要請とは思いますが、自慢の彫刻を隠している。この山車の良さを認識し、頑固に伝統を守りながら工夫してもらいたいものだ。

ちょっと乱暴な性格なので、人に嫌われる龍もいて、日本で最初の征夷大將軍になった坂上田村麻呂に退治された龍もいるよ。この人、有名な京都の清水寺を建てた実在の人物なんだよ。

龍は100年経つと「応龍」となって、鳥のように空を飛べるようになる。これが四方幕の左右に描かれた怪鳥の正体だ。応龍は「飛龍」とも言うよ。



8月10~12日 幻の合戦絵巻の龍彫り10面上之町会館にて公開!

こうりょう
虹梁

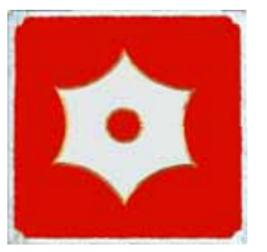
柱と柱の上部を横に繋ぐ虹のように反った梁のこと。反りによって外観をきりっと引き締めるのさ。

この山車では虹梁も工夫が凝らし、まず、袖切といって左右の厚みを柱の幅に合わせるよう彫り込んで立体感を出し、正面中央下部には眉という虹のように反った線で4段に彫り込んで更に凹凸をつけ、若葉という波、千鳥が左右対称に彫られ、下面には錫杖彫りという彫り込みがされて、様式美の中にずっしりとした重みを感じさせるのさ。

かみこうらん
上高欄

後

四方幕正面の鷹に冠が付いている図柄は判らない。飛翔するときの翼の形は猛禽類が獲物を求めて急降下する最高速の時の姿だよ。



なかこうらん
中高欄

向拝左の虹梁と坂上田村麻呂の黒龍退治と思われる彫り物



したこうらん
下高欄

波と雲で表現した狗の木鼻



いちばんぐみだしまつりおぼえがき
一番組山車祭り覚え書その3
こうらんだい らんま ちようこく
 ~高欄台の欄間の彫刻~

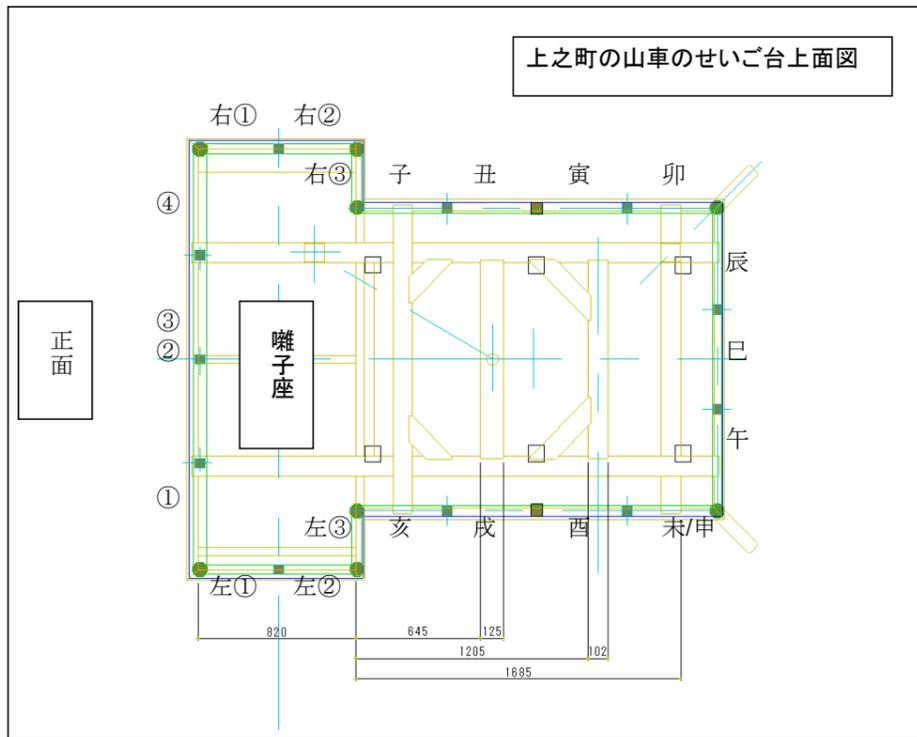


正面3 題意不明

中央の騎馬武者が槍で草叢を突き、驚いて飛び立つ小鳥。草叢には2名の武者が隠れている。

右2 題意不明

唐物5人の人物。背景に特徴なく特定できない。三国志で5人は「馬氏の五常」の5人兄弟。白眉と言われた4男と『涙を揮って馬護を斬る』の5男を排出した馬氏5兄弟があるが……。



彫刻の配置と寸法

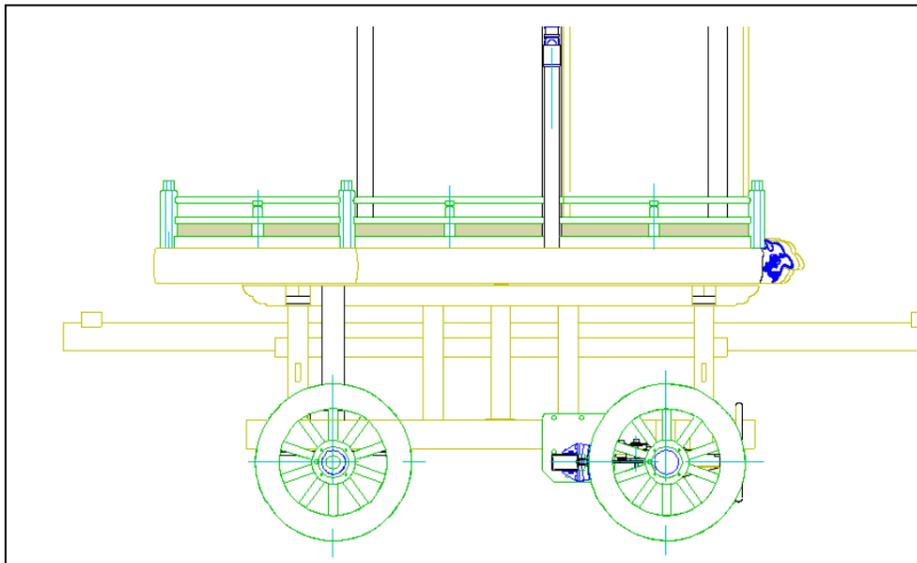
高欄台（せいご台）の高欄の欄間は、山車の側面図では右図の着色した部分を指す。

宝珠柱とたたら東、(場所に依っては脇障子)を縦軸とし、平桁と地覆を横軸の上下にした空間。囃子座を囲む10面は籠彫りで歴史絵巻を題材とし、後部は右側面から始まる十二支の素彫り。但し、11面しか無く、未と申は1面に刻まれている。

彫り物の寸法は厚みは同じで2寸(6センチ)から彫り出したと考えられる。

- 正面 478×63
- 左右 ①② 345×63
- 左右 ③ 227×63

左①②には損傷がある。
 左①は唐橋の親柱・手摺が欠落
 左②は頼朝公の首が落ちていた。



上之町祭典委員会

2006年9月編。



御伽草子『酒呑童子』 立命館アート・リサーチセンターから



鬼童丸 明治10年の歌舞伎絵

平成18年の祭典は人形の製作者が鼠屋五兵衛と判った事と、高欄台欄間の彫刻を取り出して展示出来た事で、上之町の祭典としては画期的なものとなった。この彫刻は「籠彫り」という彫り方で、遠景・近景が見事に彫り分けられ、どうして彫ったか不思議なくらいだ。残念ながら何を彫ってあるのか3つしか判らなかつた。その後調査して8つまでは判った積りなので、記録に留める。

右3 大江山酒呑童子—頼光山入



酒呑童子のあらすじ

平安時代の末、天災・飢饉も続いて時は乱れ、京の町はすっかり荒れ果てていたとさ。そのころ酒呑童子という大鬼が丹波国大江山に棲み、夜な夜な都に出てきては女や子供をさらい、その生き血を飲み、肉を食らうなど人々は弱りはてていたんだ。花園の中納言の姫君がさらわれるに及んで、帝は武勇に優れた源頼光(らいこうとも)に酒呑童子を退治するよう命令したのさ。頼光は四天王と甥の6人で山伏姿で大江山に向った。四天王の中には「羅生門の鬼退治」で有名な渡辺綱や、「金太郎さん」の坂田金時がいるよ。

途中3人の老人に逢い、「神使鬼毒酒」という鬼だけに効く酒と、「星甲」という立派な兜をもらい、さらに山奥に分け入ると、川のほとりで今朝殺された姫君の帷子(かたびら)を洗う花園の中納言の姫君に出会い、鬼の案内をさせて乗り込んだ。鬼たちとの酒宴の席で、人の生き血や肉を平然と平らげて安心させ、老人からもらった酒を飲ませると童子は身の上話を聞かせるなど上機嫌になって、やがて酔いつぶれて寝てしまった。6人は髪に忍ばせた武具を身に付け、頼光は星甲をかぶって鬼どもを退治したんだ。童子の首は打ち落とされると空中高く舞い上り、大きな口を空け芽をむくと頼光がかぶっていた星甲の鏝を6枚まで噛み砕き息絶えたそうさ。

* * 鏝とは兜の鉢の左右及び後方にたれて首筋をおおうもの。

正面1 頼光と鬼童丸

鬼童丸は袴垂保輔と並んでその頃京の町を荒らし回った大盗賊で、酒吞童子とのかかわりから、その仇頼光を討とうと市原野という所で牛を殺し、その下に隠れて待伏せをしていたが、察知した頼光一行に討ち取られてしまった。

—『古今著聞集』(未確認)



正面2 平家物語 福原遷都

1180年6月平清盛はかねてから造営していた福原に遷都(都を移すこと)を断行した。福原は大輪田泊と呼ばれていた港町で、海を埋め立て、港の施設や町並みを作っていたんだ。遷都後も工事はなかなか進まず、沈みかけた夕日に向かって「日よ、さしもどれ」と扇をかざしたところ、夕日が再び昇ったと言いつた。京都が留守になって、源氏が勢力を戻し6ヶ月で都は元に戻したけれど、翌年3月に清盛は病死して、平家の没落が始まるんだね。福原は今も神戸になっているよ。



『平家一門福原の殿上に集う』歌川国芳 1842-47年頃



正面4 桃園の誓い 三国志演義

後に蜀の国の初代皇帝となる劉備玄德(161-223)が関羽、張飛と出会い、意気投合して張飛の屋敷で酒を飲む。「我ら生まれた日は違えども、死す時は同じ日、同じ時を願わん」と「桃園の誓い」を結び、「友情」を50年あまりも持ち続け、そしてほぼ同時期に、この世を去る。しかも、玄德と張飛は、先に死んだ関羽の仇討ちの途中で志かなわずに死んでしまうんだよ。



左1(上図)・右1(下図) 俵藤太むかで退治



瀬田の唐橋の龍王と俵藤太(下の絵では龍女になって2説ある。)



龍神の娘から宝物をもらう藤太

御伽草子 俵藤太物語のあらすじ

昔ある時、近江国瀬田の唐橋に大蛇が横たわり、人々は怖れて橋を渡れなくなった。そこを通りかかった俵藤太は臆することなく大蛇を踏みつけて渡ってしまった。その夜、美しい娘が藤太を訪ねた。娘は琵琶湖に住む龍神一族の者で、昼間藤太が踏みつけた大蛇はこの娘が姿を変えたものであった。娘は龍神一族が三上山の百足に苦しめられていると訴え、藤太を見込んで百足退治を懇願した。藤太は快諾し、剣と弓矢を携えて三上山に臨むと、三上山を7巻半する大百足が現れた。藤太は矢を射たが大百足には通じない。最後の1本の矢に唾をつけ、八幡神に祈念して射るとようやく大百足を退治することができた。藤太は龍神の娘からお礼として、米の尽きることのない俵などの宝物を贈られた。また、龍神の助けで平将門の弱点を見破り、将門を討ち取ることができたという。



『瀬田橋上に秀郷 龍女を救ふ図』絵師: 安達吟光(生没年不詳)



左3 五条大橋の牛若丸と弁慶

左2 富士の巻狩 仁田四郎と源頼朝

建久4年(1193)源頼朝は征夷大将軍になった翌年、御家人を集めて富士山の裾野で巻狩を行なった。この時手負いの大猪が狩り出され、頼朝公に近づいたのを、仁田四郎忠常が馬から後ろ向きに飛び乗って仕留めて武勇を上げた。

この巻狩で曾我兄弟の仇討ちがあり、兄弟は首尾よく仇討ちを果たしたが、兄



文政元年(1818)絵馬 勇弘恵比須神社(苦小牧)



十郎祐成は仁田四郎によって討ち取られ、弟五郎時致は捕えられ処刑されている。